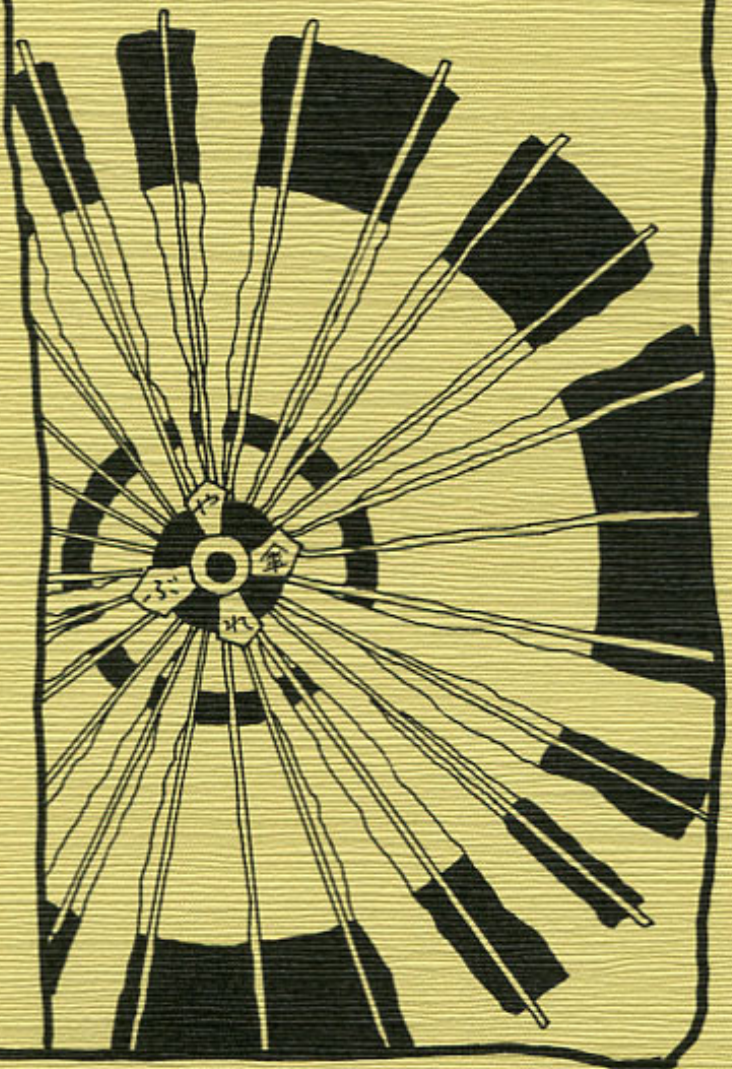
やぶれ傘



五十九号
二〇二一年四月

火も見えて畦焼く煙立ちにけり　根橋宏次
絡みたるなかに端ある蝌蚪の紐　きくちきみえ
裏庭に届く日差しや花はこべ　大島英昭
寒木瓜や日に日に威張る妻のこゑ　丑久保勲
また寒くなりけり涅槃西風吹いて　藤井美晴
餅ひとつ入れて昼餉の小豆粥　廣瀬雅男
城壁に隙間ありけり冬の蜂　瀬島洒望
紙飛行機蒲公英の野を旋回す　安藤久美子
冬星とわが影法師つき来たる　秋葉貞子
夜の雲流れてゐたる四日かな　國保八江
家崩しの音の響きや春隣　白右正躬
禅林の屋根のいろいろ梅香る　渡邉孝彦
銀杏並木まつたき銀杏黄葉かな　有賀昌子
華麗なる鉄の門扉や花ミモザ　久世孝雄
せせらぎの音と光や梅の花　齋藤朋子

やぶれ傘句集抄

大崎紀夫選

妻は手を振つてゐるらし冬茜　齋藤博
枝打ちの音の広ごる冬の山　眞田忠雄
年の夜の回路経し血の甦へる　篠崎善久
アフリカのもろき茶碗や初点前　鈴木昌子
大晦日顔いつぱいの蒸しタオル　武田紀久
氏神の新しき鈴風光る　都丸スミ代
上枝（ほづえ）より鳥の声くる寒の朝　貫井照子
古札焼く煙からまる冬木立　橋本美代
沢庵の樽に探りの手を入れる　広瀬済
孕猫一瞥投げて行きにけり　松本善一
寒の水白磁の盤に張られけり　浅嶋肇
包丁の金気のにほふ春隣　天野美登里
気の迷ひほどの雪降る葬の朝　岩藤礼子
鳥総松（とぶさまつ）くくられ御影石の門　小川滋
冬の村薪に積み方あるらしく　奥田温子

葱屑

大崎紀夫

大旦陶の卵は皿にのり

ぽつぺんの音はぽつぺん売場より

空樽の上に猫ゐる寒の入り

人日の雲たひらかに並びけり

葱屑の小さき山に日と風と

冬波のしみゆく砂のひかりかな

人かげの煙に巻かれどんど焼

大寒の日に俎板をさらしけり

村の湯をうめるに雪を運びくる

吹流しだらりと牡丹雪の朝

武蔵野の雲なき昼の霞みけり

川をゆく風は海まで雪間草

紙飛行機

安藤久美子

寒林へ近道として入りにけり
河馬は寝るただ北風のぴーぷーと
城址を高きへ朝の寒雀
息深く掌に掴みたる海鼠かな
紙飛行機蒲公英の野を旋回す
トランプの女王や王や春炬燵
春潮や日間賀島まで海鳥と
駒返る草鎌倉の道すがら
やや歪なるおむすびや春の野に
向拝（ごはい）へと梅の香届く小昼かな

影法師

秋葉貞子

小春日や丸き日差しのすぐ逃げて

水仙によき陽のさして父母の墓

冬星とわが影法師つき来たる

神杉の雪舞ひ降りる石畳

老いたりし友よりの文雪しづる

大寒の水のくらりと鯉の鰭

ポケットに追儺の豆の入りこめる

生き下手の昭和に古りて梅紅し

雪解川ちちははは住みし村はなし

重き扉の開かれてゐる涅槃寺

夜の雲

國保八江

生ひ立ちて老いたる町の初御空
仏壇の阿弥陀佛まで初明り
満天の星の元日更けにけり
夜の雲流れてゐたる四日かな
冬耕の乾きし上を均らしゆく
餅花を手にせる地蔵比企の里
神主の住まひの庭の冬菜畑
切岸にみ佛数多水仙花
風少し冬三日月と飛行船
ひとしきり春の雨ふる夜の紅茶

春隣

白石正躬

火を囲み甘藷を焼きをる午後三時

家崩しの音の響きや春隣

豆まきや板間をはづむ豆の音

春光の伐採あとに広がりて

春時雨欅の幹に雨の筋

川舟のある辺りより霞けり

藪径を抜けて日溜まり蕗の薹

蓬摘む砂取船の低き音

犬歩くままに従ひ青き踏む

遅き日や遠くの橋に灯の明かり

梅香る

渡邉孝彦

朝の日に三日の畑の青野菜
屋上に子等の縄跳び見え隠れ
濡れ縁の長き方丈福寿草
寒四郎壁に動かぬ団子虫
傘に雪昼餉の魚焼く臭ひ
雪掻きの雪を草木に散らしけり
蠟梅や作務僧笊を抱へ行く
靴先で知る堅雪の固さかな
禅林の屋根のいろいろ梅香る
開けられし火灯窓より梅見かな

有賀昌子

銀杏黄葉

銀杏並木まつたき銀杏黄葉かな
背に受ける小春の日差し緋毛氈
ディナークルーズ暖房少し効きすぎて
背を伸ばす獅子の薄目や冬日向
父と子と犬の駈け行く枯野原
装丁は明朝綴日記買ふ
楪や子の箸づかひ祖父に似て
除夜の鐘百六つ目を撞きにけり
寒暁の鴉のこゑのなかなかに
水仙花群るる岬に風のこゑ

花ミモザ

久世孝雄

雪女郎ひとり暮しの戸をたたく

傘を打つ音は霙に変りけり

寒夕焼畑の葉物はちりちりと

梅真白指定村社の碑の脇に

東京の地酒蔵元梅の花

薄氷を脇へ押しやる犬の舌

靴の紐結び直して犬ふぐり

前うしろ出口なき夢春の風邪

チェンソーの吃りの中を春の雪

華麗なる鉄の門扉や花ミモザ

齋藤朋子

数へ日のどよめきジエットコースター
寛政の代の鳥居立つ初詣
遠山のくつきり見ゆる寒の入り
人日の荒川上る荷舟かな
せせらぎの音と光や梅の花
受験子の合否や教師門に立ち
硯箱の敬天愛人春ぼこり

齋藤博

縁側の日を背に賀状分けにけり
初荷の菜山と積みたり発進す
出荷道時に真向ふ雪浅間
妻は手を振つていらるし冬茜
寒灯の青果市場に早荷置く
三寒の畑の灌水後継ぎと
白壁に寒の日差しの濃かりけり

◇ 5～6月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
5月	3日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	3日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島孟
	4日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保勲
	6日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	6日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保勲
	21日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	22日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	25日(水)	PM6:00	三斗会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP
	28日(土)	AM10:00	楽天会	戸田市文化会館	廣瀬雅男
6月	3日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	3日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保勲
	6日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保勲
	7日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	7日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島孟
	12日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	浦和・見沼	丑久保勲
	18日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	22日(水)	PM6:00	三斗会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP
	25日(土)	AM10:00	楽天会	戸田市教育センター	廣瀬雅男
	26日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

(注) ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。
6月の第3日曜の19日はやぶれ傘10周年パーティですので、吟行は第2日曜の6月12日です。集合は10時。JR京浜東北線北浦和駅改札口。吟行地：見沼代用水西縁と周辺の農園。句会場：浦和駅東口パルコ10階浦和コミセン第10集会室。

◎連絡先
瀬島孟 ☎048-862-2757
大島英昭 ☎048-592-5041
廣瀬雅男 ☎048-443-7522
丑久保勲 ☎048-853-3856
藤井美晴 ☎0422-55-2733
WEP編集室 ☎03-5368-1870
浦和コミセン ☎048-887-6565
WEP俳句教室 WEP編集室へ